富士特だより

【 めざす学校像 】
児童生徒一人一人の自立を育てる
笑顔あふれる学校
富士見市立富士見特別支援学校
令和４年３月２５日（金）第１３号

無事、令和３年度が終了しました。

本日、無事令和３年度を締めくくることができました。学部別の修了式では、代表者によるコロナに負けず頑張ったことや来年度への抱負などの発表があり、それぞれ充実した１年間であったことを振り返ることができました。３学期は、オミクロン株による第６波の急激な感染拡大で学部閉鎖や臨時休業を余儀なくされましたが、いずれも短期間で再開することができました。保護者や地域の皆様のご理解ご協力に心より感謝いたします。

今年度は、子どもたちの学びを止めないことを目標に学校運営を推進してまいりました。運動会やふじみっこ祭りでは、学部別の分散開催等の工夫をすることで、子どもたちの日頃の学習活動の成果や成長の様子を保護者の皆様に参観いただくことができたと思います。しかしながら、コロナに負けずに頑張っている子どもたちの様子を地域の皆様に発信することができなかったことは、今後の課題であると考えます。

卒業後、子どもたちの自立と社会参加、自己実現の受け皿となっていていただく地域の皆様に、子どもたちの成長の過程を見守り、応援していただくことはとても大切です。来年度以降、アフターコロナ、ウイズコロナにおいて、地域の皆様に子どもたちが生き生きと活動する様子を参観いただけるよう取り組んでまいります。本校の子どもたちの可能性や感性のすばらしさが、地域にとってもかけがえのない存在であることを実感・共感していただけることを願って止みません。

お世話になりました。ありがとうございました。

今から２０年前、ある児童と交わした約束をようやく守ることができました。

その約束は、県立肢体不自由特別支援学校に勤務していた時、肢体に麻痺のある児童と交わしたものです。担任する児童が欠席し、その学級に応援に入ったことをきっかけにその児童との心の交流が始まりました。

遠慮がちに共通の話題を見つけるうち、私から、「好きな言葉は？」と聞いたところ、笑顔をくもらせながら、「ありがとうが大嫌いかな…？」とつぶやくように言いました。耳を疑い「好きな言葉ではなくて？」と聞き返すと「そうだよ！」と、期待していなかった返事が返ってきました。彼は、打ち明けるようにその理由を話してくれました。

「僕は自分で体が動かせないから、ご飯を食べる時も、トイレも、着替えも、ベッドで反対側を向きたい時も誰かにお願いしなければならない。『お願いします』と『ありがとう』を朝から寝るまで何十回も言わなければならない。ぼくはこの体が治らない限り、死ぬまでこの言葉を言い続けなければならない。だから『ありがとう』が大嫌いな言葉だし、少しでも自分でできることは、どんなに時間がかかっても自分でやりたい！」と。

それまで、私が大好きで大切にしてきた言葉が、この子にとって大嫌いで、この子を苦しめている言葉であることを知り、やるせない気持ちになりました。
「先生、気にしないでまた来てね！」と私を気遣う児童に、その日は、やっとの思いで笑顔を作り、教室を後にしたことを今でも忘れていません。

その後も心の交流が続きましたが、離任時にこの児童と交わした約束が「笑顔あふれる学校をつくること」であり、心に誓ったのが『子どもは幸せになるために生まれてくるのであり、学校は子どもの幸せのためにある。我が使命は、特別試練教育からの脱却の実現である！』でした。今思えば、この約束がなければ、校長になっていなかったと思います。特別試練教育とは、本来の特別支援教育ではなく、健常者に少しでも近づけるための、苦手克服やできないことを少しでもできるようにすることを教育課程の中心に据えた従来の特殊教育です。

私たちは、日々苦手を回避しながら生きています。気の合わない人を食事に誘うことも、連れだって旅行に出かけることもありませんし、我が家の食卓に苦手な献立だけが並ぶことはありません。しかし、特別支援学級や特別支援学校の子どもの机上にだけは、いつもいつも苦手が山盛りになっています。

これからの特別支援教育は、できないことではなく、できることに目を向け、得意を伸ばす教育でなければならない。笑顔で元気に登校してもらい、教師とのかかわりの中で、わずか１ｍｍであっても、成長したことをお土産にして笑顔で下校してもらうことが私たち教職員の務めであるという哲学を貫き、２０年間特別支援教育に携わってきました。

人は人とのかかわりを通して自分自身を知り、周囲に認められ、褒められ、支え合いながら成長を続けます。「苦手なことはあるけれど、私はこれが大好き。一生懸命〇〇に取り組んでいる私が大好き。生まれてきてよかった！」と言える子どもを育成すること、その子らしさを引き出し、自己肯定感を高めることこそが学校の責務であると考えます。もし、自分を嫌いになってしまったら、自分を大切にできなくなってしまい、相手を思いやることもできなくなってしまいます。

人類が地球で暮らし続けるための道標である持続可能な社会の樹立を目指す「ＳＤＧｓ」と、障害のあるなしに関わらず、互いの良さを認め合い、持てる力を最大限に発揮し合える「共生社会の実現」が、当たり前に提唱されるようになってきた昨今、確実に特別支援教育に向かって風が吹いてきました。ようやく若手にバトンタッチができます。あの時の約束を果たせた今、「あべっちありがとう。ご苦労様！」と、天国から彼の声が聞こえた気がします。

これからも、障害のある子どもたちに関わるすべての人の幸せが私の願いです。
本校で多くの子どもたちと保護者、地域の皆様、教職員に出会えたことに心より感謝申し上げます。
今後も、本校の児童生徒の自立と社会参加、自己実現に向け、保護者や地域の皆様の変わらぬご支援とご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。
お世話になりました。ありがとうございました。

校長　阿部　和彦

３月の取り組み

小学部　６送会

３月３日（木）に６年生を送る会が行われました。コロナ感染対策から、動画メッセージが中心となりましたが、学年や先生方の工夫をこらした大作ばかりで、笑いあり涙ありで大盛り上がりでした。

６年生も、できるようになったこと等を動画で披露しました。また、自分で作ったビーズストラップやコットンボールをお母さんにプレゼントし、ありがとうの気持ちを伝えることができました。

中学部　３送会

３月２日（水）に３年生を送る会が行われました。卒業制作は、それぞれが作った「壁時計」です。「中学部に私たちの歴史を刻みたい！」ということで決めました。なぜ、このデザインにしたのかを、代表の卒業生が丁寧に説明してくれて、みんなも笑顔になりました。素敵な壁時計は学部棟でチクタクと動いています。

高等部　巣立ちの会

３月１日（火）に巣立ちの会が行われました。実行委員が中心となり、企画運営を先生の助けもありながら、自分たちで作り上げました。卒業制作の披露の場面では、まさかの偽物発表で、会場が一瞬ドッキリしました。本物は交通安全の看板でした。すでに飾られているので、来校の際にはぜひご覧ください。また、在校生代表の挨拶もとても立派で、会場中を感動で包み込みました。

卒業式

３月１１日（金）に卒業式が行われました。小学部６名、中学部４名、高等部５名の卒業生が、先生方や保護者の方々に見守られながら、全員が卒業証書を受け取ることができました。これから、それぞれの進路先に進むことになります。仲間と過ごした日々を大切に頑張っていってください。

先生たちはこれからもみなさんを応援しています。